

とのこと。編集者、カメラマン、ライター、その本の当事者などが均等に出资日期してまとめ出版する方法。販売はその出版方法を手がける出版会社から行うのだが、関わった皆さんも得意とするお店、業界内で営業を行う。ある意味大変な事なのですが、力のあるプロ達が力をあわせて行うのだから、「いいもの」ができるといいます。また、本が売れると自分たちに還元されるからより真剣になるとも。

現在、私が企画、デザイン、プロデュースした製品をどのように今の暮らしに使えるのか？そんなレシピを披露しようとしています。また、それだけでなく、元気いっぱいのインテリアデザイナーさん、プロダクトデザイナーさん達に、桐本の漆器のデザインを依頼し、打ち合わせ、試作検討などを進めています。この経緯をその本に織り込もうとしているのです。彼らは今の暮らしに馴染むモノづくり、家づくりを手がけているその道の一流の“モノづくラー”。漆のモノはほとんど手

がけていない人達ですが、その理解力は驚異的です。これまで以上に使っていただける漆のモノづくりの可能性が広がってきます。

これから

このように書き出してみると、私はとても多くの人と人の繋がりで生きていることがよくわかります。この不況の中、とてもありがたい話です。個人であっても、小さな輪（グループ）であっても、現代の通信手段をうまく使い、こまめに受発信を繰り返すことによって繋がりが全国、世界へ向けてじわりと広がるようです。「思い、考え、作り、出会い、交流する」これを繰り返すことにより、より多くの知識と経験が積み重なります。私たち作り手は自分が信じたモノを作り出し、現代生活に少しでも広げることが自身への刺激となります。その刺激が人を呼び、無限の繋がりを生み出します。能登空港の生かし方は、そんな人と人の繋がりを深める事かもしれませんね。

コラム どうする？能登半島



“本物”による まちづくり

株式会社 夢のと
干 場 雅 子

能登半島全体ではなく、私の生まれ育った珠洲市に絞って書きたいと思います。

珠洲市は今のままではいけないし、かといってどうすればいいかというのは簡単に答えが出るものでもありません。でも、私がひとつ思うことはあまり知られてはいないけど、良いものってたくさんあるのでそれを活かしたまちづくりをやっていけばいいのかなという事です。

実際に珠洲市に住んでいて思うのですが、珠洲市にある自然のものってすごいなと感動することがあります。例えば、珠洲のハーブ園で最高の景色が見れるとか、そこで採れたラベンダーやラベンダーオイルが良質であるとか、珪藻土はシックハウス対策にも使われ、消臭効果もすごくあるとか、珠洲であがる魚は実はその魚で有名な地域のものよりもおいしいとかです。これらは観光客用に作られたりしたものではなく、地元の人たちが認めた“本物”であると言えます。

これからは、それらの商品だけではなく、自然も含めて残された良いものを大切にしていきたいと思います。それが、これからの珠洲を作るためにもっとも大切なものだと思います。